

よりよい学級づくりのために4月にできること

|| 徹底的に音読 ||

加印いろえんぴつ 岸本 ひとみ

この広場を手にかけているのは、新学期が始まって、2回目の週末でしょうか。1週目は、前学年との引継ぎ、子どもの名前と特徴をつかみ、学級びらき&授業びらき。2週目は、実態調査をして、弱点補強の方針を立てる。

○リセット感を大切に

4月は、子どもたちはとても張り切っています。前学年でうまくいかなかったことがあっても、

「今年こそ!」

と考えて、新しいクラスに入ってきています。最近では、2年連続のクラスというのが少なくなってきましたから、担任も、メンバーも多少なりとも入れ替えがあるのが普通です。

その中で、

「やるぞ!」

と構えてくれているのですから、それを大事にしない手はありません。

音読は、リセットにもつてこいの題材です。何しろ、国語の時間は毎日あるのですから、毎日、音読練習ができます。極端ですが、4月の国語の時間は半分ぐらい音読練習に充ててもかまわないと思います。

もちろん、連れ読み、交代読み、一文読み、などを駆使して、変化のある繰り返しで、飽きない工夫をすることが前提になります。毎日音読して、上手になってくると、

「今年は去年と違う自分になるぞ。」
という気持ちを持続させることができます。

○全員参加できる

音読練習のいいところは、毎日、全員が参加できるところです。国語の教科書、音読集、楽しい詩、お気に入りの詩、いろいろ

る取り組むことができます。

高学年だと、流行りの曲の歌詞を音読してみるのもおもしろいですよ。子どもたちの好きな楽曲というのは、なにがしか心をとらえる部分があつて、共感できることが多いです。「君の名は。」が流行った年は、RADWIMPSの「前前世」の歌詞を音読してみました。野田洋二郎さんの歌詞はなかなかいいですよ。

また、

「恋すちよう 我が名はまだき 立ちにけり 人知れずこそ 思いそめしか」

という、私の好きな百人一首の恋の歌を紹介したときは大盛り上がりでした。

中学年は、やはり、工藤直子さんの「のはらうた」でしょう。かまきりりゅうじの「おれはかまきり」で、

「おう 夏だぜ。」

を始めるとノリノリです。発展として、合唱組曲もあるので、音楽発表会もできます。

四年生は「かつとばせ 都道府県」に4月から取り組めば、派生して楽しい地図遊びが自然発生的に始まっていきます。

